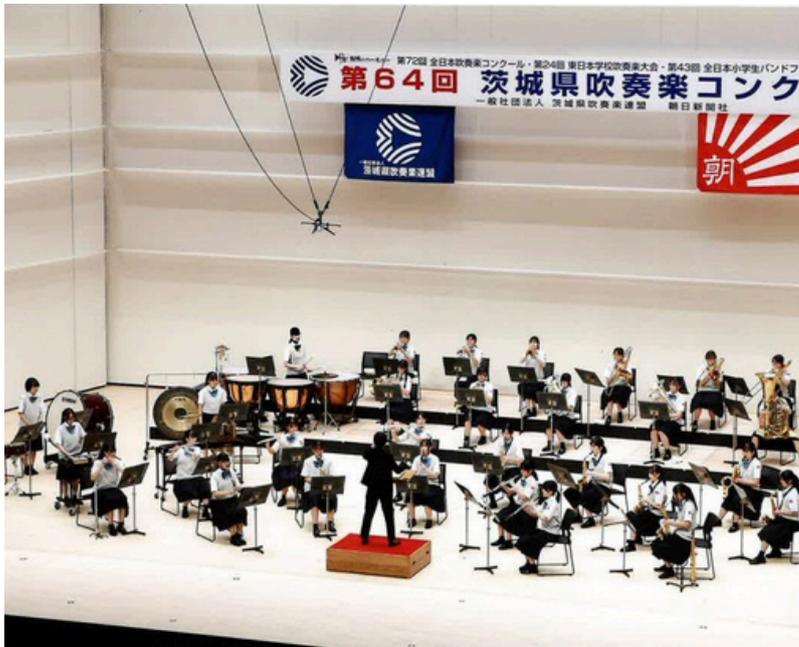


Newspaper vol.01



挑戦のはじまり

2024年8月8日に水戸市民会館 グロービスホールで開催された吹奏楽コンクールに出場しました。水戸二高アンサンブル同好会設立以来、初めてのコンクール出場です。

これまで何度かコンクールへのチャレンジが話題に上がることがありましたが、なかなか踏み出すことができなかったその一歩。現状、練習環境も十分に整えられていると言えるものではないため、小・中学生時代、真剣にコンクールに向き合ってきたからこそ、その舞台に立つのは難しいと考える会員がほとんどでした。そこでわたしたちは原点に立ち返り、コンクールに挑戦することの意味を考えました。「金賞をとる」「上位大会に進む」もちろんそういったモチベーションは素晴らしい演奏を生み出す原動力になります。しかし、コンクールを経て得られるものはそれだけではないと考えました。普段は取り組むことのできない難曲と向き合うこと。その練習で得られるものは技術だけではなくはず…。

「コンクールという大舞台を乗り切って楽しい打ち上げをしよう！」

困難を乗り越えるからこそ見ることのできる景色(味わうことのできる焼肉?)を求めて、コンクールへのチャレンジがスタートしました。

水戸二高「らしさ」

迎えた本番。フィリップ・スパーク作曲の自由曲「リフレクションズ」の最後のトゥッティを華々しく、輝かしく、そして、しっかり感情を乗せて演奏しよう決めていました。12分間のラスト、体力・集中力が切れそうになる中で、自分たちの挑戦の証を刻むつもりで挑みました。その音は一言で言えば「必死」だったと思います。やりきろうとする必死な、ある意味では泥臭い演奏となり、水戸二高のイメージとは少しかけ離れたものだったかもしれません。しかし、そのような音楽ができたのも、本番にも物怖じせず、それぞれの使命を全うする冷静さを持つ二高生だったから、とも言えます。

帰校後のミーティングは、コンクールの反省会として出場団体の中でも最も爽やかなものだったのでは？と思うほどの雰囲気の中行われました。30人でも、練習環境に限られていても、コンクールに挑戦できた喜びと自信、そして何かもっと面白いことができるかもしれないという未来への期待がその表情に満ちあふれていました。これから水戸二高だからこそできる音楽を求めて”のんびり”精進していきたいと思えます。

編集後記

今回のコンクール出場にあたり多くの方の応援がありました。当日打楽器運搬をお手伝いいただきました先生方・卒業生のみならず、水戸葵陵高校さんにこの場を借りて御礼申し上げます。今後とも水戸二高の応援をよろしくお願いいたします！

選ぶは茨の道！？

わたしたちがA部門にエントリーした理由は様々ありますが、一番は歩いて行ける距離に新しい素敵なホールがあるのに、ここで演奏しない手はない！ということ。A部門は大人数の団体が出場するもの”という固定観念をここでも覆そうと、とにかく「面白い方」を選ぶことにしました。

A部門に出るとなれば、当然課題曲を練習しなければなりません。4月の入学式で課題曲Ⅰのマーチは演奏済み。しかし、作曲家・酒井格書き下ろしの課題曲がある年に、高校生として吹奏楽に関われたチャンス逃すのはもったいない。そして、高校時代の思い出を大人になって振り返るとき、頭に浮かぶコンクールの風景と一緒にこの課題曲Ⅲ「メルヘン」が鳴っていたら、なんて素敵だろうか…。こうしてわたしたちはまた面白い方(=茨の道!?)を選択したのです。

実は7月中旬に行ったホール練習では、曲を通して演奏することができず、時に焦りを感じながら練習を進めていました。しかし、そこはポテンシャルの高い二高生。すさまじい集中力と地道な努力で、本番に向けて仕上げていきました。

